

平成27年度 新発田市遺跡出土品展

# 発掘調査のあゆみ

— 遺跡から見てきた新発田のむかし —

平成28年1月16日[土]～1月24日[日] / 新発田市立図書館 坪川記念室

主催:新発田市教育委員会

## 開催にあたって

昭和54年に新発田市として発掘調査の体制整備を始めて以降、開発行為に先立って実施した本格的な発掘調査は100か所を超えました。また、知られている遺跡の数も、調査体制の整備以前は4市町村(旧新発田市・旧豊浦町・旧紫雲寺町・旧加治川村)の合計で260か所ほどだったものが、その後の遺跡調査の結果を受け、現在では700か所近くとなりました。新発田の歴史を解明する上で貴重な基礎データが蓄積されつつあります。

このたび、新発田市教育委員会では、発掘調査の成果を広く市民のみなさまに公開するために、各時代の特徴をよく示す出土品の展示を企画いたしました。限られた内容とはなりますが、発掘調査の進展と共に明らかとなってきた、先人の足跡と悠久の歴史に思いをはせていただければ幸いです。

### ■ 新発田市の発掘調査

県や市町村などの自治体が行う発掘調査の多くは、「緊急調査」と呼ばれる、開発工事の事前調査です。工事によって失われる部分のみを発掘調査して記録に残す作業を行っています。新発田市の場合、農業基盤整備事業(ほ場整備)や道路造成、建物の建設に先立つものが大半を占めています。調査箇所は市内の全域に及びますが、近年は平野部での調査が増加しています。

それでは、これらの発掘調査成果を時代ごとに見ていきましょう。

### ■ 旧石器時代

主な遺跡:坂ノ沢C遺跡(虎丸)、前山遺跡(中川)、  
ふたごさわ 二タ子沢A遺跡(菅谷)、かみしんでん 上新田B遺跡(板山)

人類史の最初の段階が旧石器時代です。日本列島では、3万年前頃からその痕跡が見つかり始めます。当時はまだ氷河期で、平均気温が今よりも低く、ナウマンゾウなど今は絶滅した動物も生息していました。坂ノ沢C遺跡や前山遺跡からは、この時期の特徴をよく示す石器が出土しています。遺跡からは、動物の狩りに使う槍先などを作っていた跡が見

つっていますが、住居の跡はわかっていません。これらの遺跡はキャンプ地のような一時的な居場所だったと考えられます。

### ■ 縄文時代

主な遺跡:おど 小戸A遺跡(小戸)、かみくるまの 上車野E遺跡(宮古木)、  
貝屋A遺跡(貝屋)、きただいら 石田遺跡(上石川)、北平B遺跡  
(上三光)、中野遺跡(板山)、村尻遺跡(下寺内)

日本では1万5千年前頃から土器が登場し、土器の発明とともに縄文時代が始まります。しかし、市内ではこの段階の資料はまだ見つかっておらず、市内最古の土器は、今のところ8千年ほど前の縄文時



坂ノ沢C遺跡出土の県内最古段階の石器



王冠型土器の出土状況(石田遺跡)

代早期のものです。そして、遺跡の数が増え始めるのが縄文時代前期の終わり頃からです。

縄文時代中期になると、<sup>たてあな</sup> 竪穴住居で構成された集落が増加します。この時代の石田遺跡や上車野E遺跡、貝屋A遺跡などでは、新潟県内に多くみられる火焰型土器や、東北地方の影響を受けた土器が多く見つかっています。

縄文時代後期から晩期にかけての代表的な遺跡に、中野遺跡と村尻遺跡が挙げられます。豊富な土器・石器のほかに、中野遺跡ではヒスイの加工を示す資料が出土し注目されます。また、村尻遺跡からは、漆やアスファルトの利用を示す資料や、炭化したクリやクルミなども見つかり、当時の人々の様々な暮らしぶりがうかがえます。

## ■ 弥生時代

主な遺跡: 村尻遺跡(下寺内)、<sup>おうじやま</sup> 王子山遺跡(小川)

一般的に、弥生時代は米作りが始まる時代ですが、市内では弥生時代の集落や水田は見つかっていません。一方で、当時の墓と考えられる痕跡は村尻遺跡や<sup>やまそうか</sup> 山草荷遺跡(草荷)で見つかっています。村尻遺跡から出土した土偶型容器ほかは、国の重要文化財に指定されています。

## ■ 古墳時代

主な遺跡: <sup>のなかどてつけ</sup> 野中土手付遺跡(野中)、曾根遺跡(天王)、<sup>のみとりばし</sup> 蛭取橋遺跡(竹ヶ花)、矢詰遺跡(奥山新保)

古墳時代の遺跡は、加治川扇状地の外縁付近の平野部で多く見つかっています。縄文時代の遺

跡が丘陵部に多いことに比べると、低地の開発が進んだ結果を示すといえるでしょう。

野中土手付遺跡では、古墳時代初め頃の土器がまとまって出土しました。これらの土器には、石川県など北陸地方西部を中心に見られる形が多く、それまでの東北地方の影響を受けた文化とは異なっています。この時代の変わり目に、大きな人の動きがあったとみられます。

また、蛭取橋遺跡では古墳時代後期の川の跡が見つかり、通常では残りにくい木製品が多数出土しました。中には、祭事に使われたと思われる剣形や刀形のほか、はしごなどの建物の部材もあり、当時の人々の暮らしの様子がより具体的に伝わってきます。

## ■ 奈良・平安時代(古代)

主な遺跡: 曾根遺跡(天王)、丸山A遺跡(葦光)、地蔵<sup>こうじんうら</sup> 潟遺跡(中ノ目新田)、荒神裏A遺跡(富塚町1)、桑ノ口遺跡(桑ノ口)、真木山遺跡群(万代ほか)

奈良時代の朝廷は、「律令制」という中国の制度を取り入れて天皇中心の国づくりを進めました。地方では、国・郡・里(郷)の単位ごとに、役所によって管理が行われました。

曾根遺跡は、福島潟の東岸に面した遺跡で、奈良・平安時代の遺物が大量に出土しました。「郡」・「上殿」などの文字が書かれた土器もあり、郡の役所に関する場所だった可能性が指摘されています。曾根遺跡東側の真木山丘陵では、同じ頃に「須患<sup>すえん</sup>器」と呼ばれる焼き物の窯が多数築かれ、製鉄も盛んに行われました。当時、窯や製鉄は官営であったと考えられることから、曾根遺跡はこれらの生産や流



微高地上の古代集落(荒神裏A・B遺跡)

通と関係の強い場所だったのかもしれない。

この時代になると平野部の遺跡数はさらに増加していきます。西新発田駅前の荒神裏A遺跡・B遺跡などでは、川沿いの微高地に営まれた集落が見つかっています。これらは、畑のそばに小型の建物が数棟並ぶ村落的なものでした。

## ■ 鎌倉・室町・戦国時代(中世)

主な遺跡: <sup>ふたつわり なかすみよし</sup>ニツ割・中住吉遺跡(中島)、<sup>はこだて</sup>新発田城跡(大手町6)、<sup>ほうしやくじやかた</sup>宝積寺館跡(上三光)、<sup>い</sup>箱館跡(早道場)、<sup>じみのやかた</sup>五十公野館跡(五十公野)、<sup>あがきたしゅう</sup>加治天王前遺跡(東宮内)

武士が政治の実権を握る鎌倉時代になると、幕府は各地に守護や地頭などを配して地方を支配していきます。守護や地頭の中には、土着化して豪族となり各地域の支配を進めていくものも現れるようになりました。阿賀野川以北の豪族たちは「揚北衆」と呼ばれ、時に連携し、また時には反目しながらも自立性の強い地域を形成していきました。

加治川流域の多くは「<sup>からのしょう</sup>加地荘」と呼ばれ、鎌倉時代初期に越後守護となった<sup>ささきもりつな</sup>佐々木盛綱の末裔である加地氏やその分家である新発田氏・竹俣氏らによって治められました。

彼ら領主層は、屋敷地の周囲に堀と土塁をめぐらした館を築き、それぞれ地域支配の拠点としました。

これまでに、竹俣氏の館跡と考えられる宝積寺館跡や、新発田城跡の一角で発見された、新発田氏の館跡などを発掘調査し、それぞれの館の様子が少しずつ明らかになっています。宝積寺館跡では、高さ2mの土塁や幅4m・深さ2mの堀が見つかり、防衛性の高い屋敷地であったといえるでしょう。



深さ2mに及ぶ中世居館の堀(宝積寺館跡)

また、鎌倉時代以後になると全国的に流通する焼き物が見られるようになります。これらの館跡からは、青磁や白磁といった中国産の磁器のほか、東海地方で作られた瀬戸・美濃産の茶碗などの高級品も出土しており、出土品からも勢力の大きさが推測できます。

今年度に発掘調査を行った五十公野館跡では、銅製の小仏像が出土しました。当時の有力者の中には「念持仏」として専用の仏像を持つ人々がいましたが、遺跡から出土することは極めてまれであり、貴重な発見といえます。

## ■ 江戸時代(近世)

主な遺跡:新発田城跡(大手町4・6)

慶長3(1598)年、新発田藩祖・溝口秀勝侯が加賀大聖寺から新発田へ入封すると、中世豪族であった新発田氏の館跡を含む一帯に新発田城を築き始めました。以後、新発田城は幕末維新期に至るまでの約270年間、藩の中心として存続しました。

新発田城跡での発掘調査は、自衛隊の建物建設や公園の造成などに先立つものがほとんどで、20か所以上で行っています。

本丸跡では、三階<sup>たつみやぐら</sup>櫓・辰巳櫓の復元にともなう調査などを行いました。辰巳櫓跡では礎石を多数検出し、櫓を復元するにあたって大きな情報をもたらしました(第14地点)。このほか自衛隊の敷地内では裏門部分を発掘し、門に伴う石垣を発見しています(第16地点)。

二ノ丸跡は、本丸北側の藩の施設などが建っていた一角と、本丸東側・南側の重臣屋敷地に大別で



新発田城 辰巳櫓跡の発掘調査

きます。前者では、上米蔵や御蔵屋敷があった場所から、地名・人名・日付とともに「御蔵米」と書かれた木札が見つかりました(第8・9・10地点)。年貢などの荷札と考えられます。後者の家老屋敷地では、多くの陶磁器や木製品とともに「堀」と記された木札などが出土しました。幕末の絵図面に記された堀氏の屋敷地であることを裏付ける資料だと言えます(第21地点)。

このほか、二ノ丸の西側では外堀の一部が見つかり、数回にわたって堀の修復を行った様子があります(第19地点)。

### ■ 埋蔵文化財活用の取り組み

現地での発掘調査が終わると、得られたデータや出土品は、屋内での整理作業を経て発掘調査報告書にまとめられ、その成果を公表します。

しかし、発掘調査やその報告書は内容が専門的であるため、市民により分かりやすく伝える目的で「発掘調査現地説明会」や「遺跡出土品展」、「文化財展示コーナー」を開催し、その成果の解説を行っています。

また、毎年4月には市内各小学校の6年生を対象に「社会科出張授業 縄文時代の暮らし」を実施しています。各小学校に市内遺跡から出土した縄文時代の土器などを持参して説明し、歴史学習の素材として役立ててもらうとともに、郷土の先人の歩みについて関心を深めてもらっています。

このほかにも各種団体の講演会・報告会等に参加し、遺跡調査の成果を基に、郷土の歴史についてお伝えする活動を行っています。



小学校社会科出張授業の様子

### 新発田市の遺跡年表

時代	年代	市内の主な遺跡	
旧石器時代	30,000年前 22,000年前 18,000年前	坂ノ沢C遺跡(虎丸)、前山遺跡(中川) ニタ子沢A遺跡(菅谷)、上車野遺跡群(宮古木) 上新田B遺跡(板山)	
	縄文時代	草創期 15,000年前	
		早期 9,000年前	小戸A遺跡(小戸)、狐森B遺跡(小戸)
		前期 6,000年前	狐森B遺跡(小戸) 京沢遺跡(菅谷)
		中期 5,000年前	ニタ子沢A遺跡(菅谷)、石塚遺跡(小出) 石田遺跡(上石川)、上車野C遺跡(宮古木)
		後期 4,000年前	北平B遺跡(上三光)、貝屋A遺跡(貝屋) ニタ子沢C遺跡(菅谷)、中野遺跡(板山)
晩期 3,000年前	村尻遺跡(下寺内)、館ノ内遺跡(山内) 十二林遺跡(蔵光)、青田遺跡(金塚)		
弥生時代	前期 2,500年前		
	中期 2,000年前	村尻遺跡(下寺内) 山草荷1遺跡(草荷)、王子山遺跡(小川)	
	後期 1,800年前	曾根遺跡(天王)	
古墳時代	前期 西暦300年	野中土手付遺跡(野中)、王子山遺跡(小川) 曾根遺跡(天王)、ヲト山遺跡(長島)、七社遺跡(住田)	
	中期 400年		
	後期 500年	蚤取橋遺跡(竹ヶ花)、矢詰遺跡(奥山新保) 空毛遺跡(飯島)、荒神裏B遺跡(富塚町1)	
古	飛鳥時代 600年 700年	馬見坂遺跡(佐々木)	
	奈良時代	志村山窯跡(吉浦) 貝屋窯跡(貝屋)、丸山A遺跡(蔵光) 地蔵淵A遺跡(中ノ目新田)、荒神裏A遺跡(富塚町1) 曾根遺跡(天王)、真木山遺跡群(万代ほか)	
	平安時代	800年	山王遺跡・松橋遺跡(五十公野) 空毛遺跡(飯島)、野中土手付遺跡(野中)
		900年	坂ノ沢C遺跡(虎丸)、下山田道下遺跡(下山田)
		1000年	桑ノ口遺跡(桑ノ口)、太田遺跡(東宮内)
1100年	大沢(叶山)経塚(大沢ほか)		
中世	鎌倉時代 1200年	北沢遺跡(滝沢)	
	1300年	住吉遺跡・二ツ割遺跡・中住吉遺跡(中島)、正尺遺跡(小坂) 加治天王前遺跡(東宮内)、堀根前遺跡(大伝)	
	室町時代 (戦国時代)	1400年	太斎館跡(太斎)、山王遺跡(五十公野)
		1500年	箱館跡(早道場) 宝積寺館跡(上三光)、寺内館跡(下寺内)
	安土桃山時代	1580年	新発田城跡 第8地点(大手町6)
近世	江戸時代	1600年	新発田城跡 第12地点(大手町6)
		1700年	新発田城跡 第15地点(大手町6)
		1800年	新発田城跡 第21地点(大手町6)
近代	明治	1870年	

平成27年度 新発田市遺跡出土品展

### 発掘調査のあゆみ

— 遺跡から見えてきた新発田のむかし —

編集・発行：新発田市教育委員会 文化行政課

発行日：平成28年1月16日